

大会宣言

我が国におけるこれからの社会基盤の整備には、東日本大震災からの復興の取り組みはもとより、自然災害に対する防災・減災のための国土強靱化、経済や産業の発展のための公共事業および既存の社会基盤の長寿命化を含む老朽化対策や維持管理等、早急に取り組まなければならない様々な課題がある。

社会的には少子高齢化の時代を迎える中で我々が立ち向かう分野は、技術の高度化、情報化およびグローバル化等の社会の変化への対応が求められ、建設現場では女性技術者の活用やコスト削減のための作業の効率化等の解決すべき課題も山積している。これらの社会的な背景を受けて、社会基盤の整備を担う若年技術技能者をどのように育成するかが、喫緊の課題として我々に与えられている。

我々全国高等学校土木教育研究会の会員校および教職員は、全国の高等学校土木系学科で学ぶ生徒の教育において、未来社会に向けて土木工学の意義とその役割の重要性を再認識し、高い志をもって社会基盤の整備を担う人材を育成していかなければならない。

我々は本日の大会において、後援ならびに協賛頂いた関係諸団体とともに、共通理解を深めながら連携が強く求められている。これからの社会基盤の整備に携わる人材育成の責任と使命を自覚し、ここに次のことを宣言する。

1. 我が国の国土強靱化を図る社会基盤の整備と、既存を含む社会基盤の維持・管理等における土木工学分野に突きつけられた諸問題について、主体的でかつ合理的に倫理観をもって解決できる若年技術技能者を育成する。
2. 高等学校土木系学科の教育において、教職員は自ら未来社会に向けて土木工学の意義や役割について再認識をすることにより、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を有する人材を育成することを目指す。
3. 高等学校土木系学科で学ぶ生徒には、産・学・官・民の諸団体と連携して、建設技術技能に関する基礎的・基本的な知識と技術を、組織的・計画的・継続的に習得できる機会や場を準備する。
4. 全国高等学校土木教育研究会の会員校および教職員は、「土木を学ぶ生徒の成長を期する教育」を共通の理念として、広い視野をもって高等学校土木教育の使命と責任を自覚し、自ら研鑽に努め土木教育の発展を図る。